

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 18 章 15～20 節>

①教会に属さない、イエス様だけを信じて生きる信仰はあり得るか？

教会について語られている箇所です (17 節に 2 回「教会」)。教会がまだない時代にイエス様は本当に教会について語られたのでしょうか。同じマタイ福音書の 16 章 18 節でイエス様は、「ペトロ(岩の意)の上に私の教会を建てる」と言われています。ここから教えられることは、イエス様を信じる信仰者は信仰者たちが集って礼拝を捧げる群れ(それが教会!)に連なることになるのであり、自分一人で信じるキリスト教信仰はあり得ないということです。

②三段階の罪人の対処の仕方は、私に当てはめて考えること。

私たちは他者と共に生きるときに初めて自分の性格や短所あるいは長所を知ることができます。それは信仰者も同じであり、信仰共同体、すなわち教会で生きる中で知らされていくのです。この箇所では、罪を犯した者に対する対処は三段階で考えるようにとされています。ここを理解するために大事なことは、「どんな罪をも赦すのが信仰」ではないこと、同時に、次の箇所 (21 節以下「仲間を赦さない家来」の話)から、自分も神の前に引き出されるまで分からない罪を犯し得る者であること、この二つを考えながら読むことです。すると思えて来るはずですが、この三段階の指示は温情味ある仕方であり、そのどこかで罪に気づき、聞き入れなければならないのは私自身である、と。

③つなぎ、解く権能を与えられた信仰者一人ひとりの責任は重い！

19 節以下は、数名の信仰者の集まりでも主が共にいますという励ましを与えられる箇所です。しかしそれまでの箇所を考える時、「少数であっても信仰者が集まる時にはその主が見つめておられるのだ」という緊張感も失ってはならないのです。教会に託された使命は重いのです。

④関連する聖書の箇所

- ・ 15 節に対して：「17 心の中で兄弟を憎んではならない。同胞を率直に戒めなさい。そうすれば彼の罪を負うことはない。18 復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。」(レビ記 19 章 17-18 節)
- ・ 16 節に対して：「いかなる犯罪であれ、およそ人の犯す罪について、一人の証人によって立証されることはない。二人ないし三人の証人の証言によって、その事は立証されねばならない。」(申命記 19 章 15 節)